

中学生の「税についての作文」優秀作品  
『十日町納税貯蓄組合連合会優秀賞』

## 少子高齢化とこれからの税

十日町市立 下条中学校 3年  
村山 紗和

「少子高齢化」この言葉をよく聞くようになりました。この問題は、出生率が低くなり、人口に対する子どもの割合が少なくなる「少子化」と高齢者人口の割合が7%以上になる「高齢化」が組み合わさった問題です。近年、世界でもこの少子高齢化が進んでいて、日本は特に高齢化率が高く、加速している国だと言われています。

私は以前、授業で税について学びました。その時、印象に残ったのは国の歳出でトップの社会保障です。社会保障は、私たちが安心して生活していくために必要で、医療、年金、介護、福祉のしくみのことです。少子高齢化が進むと社会保障の費用が増え、その費用を負担する働き手も減ってしまいます。そのため、高齢者1人あたりを支える人数が減り、2000年には3.6人だったのが2050年には1.3人になってしまうそうです。その話にすごく驚いて印象に残っています。

また、現在の消費税は10%ですが5年前までは8%でした。私の両親が子どもの頃は、3%や5%だったそうです。このような税の引き上げも少子高齢化と関わっているのではないかと思います。

また、現在では少子高齢化や都市部への人口集中により、地方の過疎化も問題となっています。多くの過疎地域では農業や林業、漁業などの産業が主な産業となり、人々が暮らしているため、耕作に適した土地が整ったり、山林を間伐することによって海にも良い栄養が渡り海が豊かになります。しかし、高齢化や都市部への人口流出が進み、農林業・漁業をする人がいなくなると、そもそも産業する人がいなくなってしまうため、食料自給率の低下につながってしまいます。そこで、最近CMでも見るようになった「ふるさと納税」というのが効果的ではないかと思います。ふるさと納税とは、国民が好きな自治体を選んで税を寄付できる制度です。ふるさと納税の利用者は年々増加しています。その理由は、寄付をすると返礼品を受け取れるからです。利用者はふるさと納税をすることでその地域の特産品や情報を知ることができます。また、休みをとって旅行に行くのが難しい人もふるさと納税を利用すれば地域の名産品とともに旅行気分を味わうこともできると思います。

少子高齢化は、日本にとって大きな問題だと思います。対策をしていくのはもちろん、税の一人ひとりへの負担が大きくなりすぎないように、ふるさと納税を使っていくのも良い解決策になると思います。